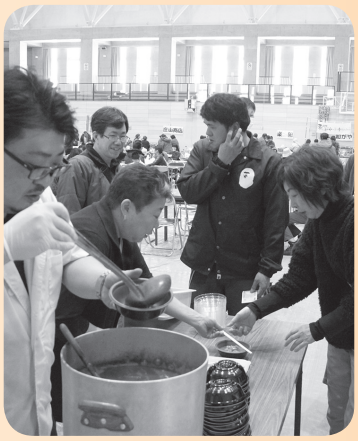
うまいものに〝いいね！〟『かみのくに食遊祭』行われる



2月17日、地元の味覚が勢揃いした第12回かみのくに食遊祭（同実行委員会主催）がスポーツセンターで開催され、訪れた約1000人が各店自慢の逸品を味わいました。

今回は町内外の12店舗が出店し、朝鮮風鍋や肉巻きおにぎり、かたこもちなど趣向を凝らした品々を販売。おいしい逸品を提供した店舗を選ぶ「いいね！ランキング食遊祭総選挙」も行われ、「とろとろポークのカレー鍋」を提供した夷王亭（字大留）が114票を集め優勝し、「フルーツポークじゃがもちあんかけ」の居酒屋美里（字大留）が2位、「くじら汁」の古館漁業部（字扇石）が3位という結果となりました。

また、上ノ国町商工会が特産品開発の取り組みの一環で試作考案した「たこ・おから入りハンバーグ」の試食が行われたほか、上ノ国中学校吹奏楽部、鼓友会による演奏やカミゴンによる子どもじゃんけん大会などが会場を盛り上げていました。

訪れた人は、「いろいろ食べましたが、どれも工夫がされていておいしかった。」と満足した笑顔で話していました。

心に住むオニを退治 保育所で豆まき

2月1日、上ノ国・河北両保育所では、節分の豆まきが行われました。

このうち、上ノ国保育所では園児83人が参加。園児たちは、保育士から節分の豆まきの由来などを学んだ後、自分たちで作ったカラフルな鬼のお面をかぶり、クラスごとに分かれて豆まきをしました。

その最中に、「わるい子はいないか」と言いながら赤鬼と青鬼が登場。恒例となるサプライズに園児は顔をひきつらせながらも果敢に自分の心の中にある「泣き虫鬼」「怒りんぼ鬼」「弱虫鬼」を退治しようと、大きな鬼に向かって豆を投げることができました。

園児と鬼の攻防が数分間続いた後、鬼が「なまけたり、友達にいじわるをしないか」と問いかけると、大きな声で「はい！」と返事をした園児の表情は、また新しい自分を見つけて、自信に満ち溢れていました。

美しく、豊かな四季に恵まれた私たちの暮らしの中には昔からの伝統行事があり、これからも大切にしていきたいものですね。

相手を思いやるこころを学ぶ 滝沢小で人権教室開催

1月31日、江差人権擁護委員会と函館地方法務局江差支局による人権教室が滝沢小学校で行われ、3年生から6年までの8人が人権の大切さを学びました。

この教室は、相手への思いやりの心や命の尊さを学んでもらおうと行われているもので、人権擁護委員で同地域に住む小間均（字汐吹）さんほか3名が講師を務めました。

始めに紙芝居「白い魚とサメの子」の読み聞かせを通じて、自分らしさを持ちつつ、相手を思いやるように訴えると、児童は大きくうなずいていました。続いて、二人一組となって互いをほめあうことを目的とした実技が行われ、児童は、はにかんだ表情を見せながら相手の良い部分を挙げていました。

児童からは、「いじめはだめなことだ」と話すなど、人権意識の向上が感じ取れました。

排便は体からの便り 上ノ国小で食育教室が行われる

2月13日、上ノ国小学校の3年生18人を対象とした食育教室が同校で行われました。

この教室は、からだに良い食べ物を選ぶ目と食の大切さを学んでもらおうと行われたもので、「うんちから学ぶ食育教室」と題して町の栄養士が講話。はじめに消化器官の役割が説明され、排便から体調を知ることができるとした上で、理想の排便を促すために1日に必要な野菜の量を「手はかり法」と呼ばれる手法により確かめていました。

栄養士からバランスの取れた朝食とできるだけ野菜を食べてと声をかけられるとみな大きな声で返事をし、児童は、「朝食や野菜の大切さがすごくわかった」など食事の大切さを感じていたようでした。

なお、18日にも、同校の6年生25人を対象とした食育教室が行われ、授業を通じて食の大切さを学んでいました。